

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	社会的養護Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	社会的養護Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ』(改訂版)		出版社	明文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	施設養護及び家庭養護の実際について具体的に理解する。社会的養護の必要な子どもの特性や現状を踏まえ、日常生活支援、治療的支援、自立支援の視点で事例から実践的に学ぶ。また、家庭支援、アセスメントの方法や個別の支援計画、記録、自己評価など、ソーシャルワークの専門的技術と知識を学ぶ。				
到達目標	①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ②施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	保育科：保育士資格要件科目 こども総合学科：保育士 こども心理学科：保育士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	五十嵐 弘明	実務経験	○		
実務内容	児童養護施設にて児童指導員・家庭支援専門相談員として20年間勤務後、放課後等デイサービスにて児童発達支援管理責任者・統括管理者として10年間勤務した実務経験を基に、各施設の実情を踏まえた具体的な実践方法や保育士の専門性に関わる知識・技術とその応用等について事例をもとに考察を交えながら教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・社会的養護における子ども理解と支援の基本①	子どもの最善の利益
2	社会的養護における子ども理解と支援の基本②	生存と発達の保障
3	社会的養護における子ども理解と支援の基本③	児童自立支援計画の作成と記録及び自己評価
4	社会的養護における子ども理解と支援の基本④	子どもの権利を守る仕組み
5	社会的養護における保育士等の専門性①	支援者としての資質と倫理
6	社会的養護における保育士等の専門性②	バーンアウトと共依存の予防
7	児童養護の体系と児童福祉施設の概要	児童養護の体系 児童福祉施設の概要
8	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際①	児童養護施設の暮らし
9	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際②	乳児院と母子生活支援施設の暮らし
10	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際③	医療型障害児入所施設の暮らし
11	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際④	治療的支援と児童自立支援施設・児童心理治療施設の暮らし
12	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際⑤	福祉型障害児入所施設の暮らし
13	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際⑥	里親制度の特徴とその実態
14		
15	前半の内容の試験	まとめ
16		
17	心の傷を癒し、心を育むための援助①	保育士の業務
18		
19		
19	心の傷を癒し、心を育むための援助②	虐待された子どもへの支援
20	心の傷を癒し、心を育むための援助③	虐待への対応

21	親子関係の調整①	子どもと家族への支援
22	親子関係の調整②	児童相談所との連携 家庭支援
23	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践①	相談援助の技術の活用
24	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践②	入所から退所後に至る支援と基本的日常生活支援
25	地域連携と家庭支援①	施設の小規模化・地域分散化
26	地域連携と家庭支援②	地域とのかかわりと家庭支援
27	地域住民と施設	地域と施設の関係
28	後半のまとめ	後半の内容のまとめと振り返り・レポート提出
29	総まとめ	学習内容の総まとめ
30		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの食と栄養Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの食と栄養Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	子どもの食と栄養 改訂第4版		出版社	中山書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基礎となる為食を通じた子どもの健全な保育に携わる知識を身につける。				
到達目標	1. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 2. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	保育士				
関連科目	子どもの食と栄養Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	喜多野 直子	実務経験	○		
実務内容	病院にて病院栄養士として約2年間勤務、保育士試験対策講座講師として16年勤務した実務経験を基に、小児期の食生活に関する発展的内容について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	子どもの食と栄養Ⅰの復習・振り返り
2	第4章：食育の基本と実践①	食育基本法の概要
3	第4章：食育の基本と実践②	食育基本法の目的・推進
4	第4章：食育の基本と実践③	食育推進基本計画
5	第4章：食育の基本と実践④	食育推進基本計画の実施
6	第4章：食育の基本と実践⑤	保育所における食育の推進
7	第4章：食育の基本と実践⑥	保育所における食育の推進の計画・実施・評価
8	第4章：食育の基本と実践⑦	食育活動の実践
9	第4章：食育の基本と実践⑧	保護者への情報提供
10	第4章：食育の基本と実践⑨	学校給食の現状
11	第4章：食育の基本と実践⑩	栄養教諭・バランスガイド
12	第4章：食育の基本と実践⑪	理解度確認
13	第4章：食育の基本と実践⑫	食育媒体に触れる
14	第5章：児童福祉施設や家庭①	児童福祉施設における食に関する指針
15	第5章：児童福祉施設や家庭②	児童福祉施設の食事
16	第5章：児童福祉施設や家庭③	保育所における保護者支援と地域との連携
17	第6章：感染症と食中毒①	感染症と食中毒の違い
18	第6章：感染症と食中毒②	食中毒の発生状況と予防策
19	第6章：感染症と食中毒③	施設における衛生管理
20	第6章：感染症と食中毒④	理解度確認
21	第7章：特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	食物アレルギー

22	第7章；特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	アレルギー疾患への対応
23	第7章；特別な配慮を要する子どもの食と栄養③	鉄欠乏性贫血・糖尿病・発熱・体調不良
24	第7章；特別な配慮を要する子どもの食と栄養④	急性胃腸炎・便秘
25	第7章；特別な配慮を要する子どもの食と栄養⑤	肥満・やせ・障がい児
26	第7章；特別な配慮を要する子どもの食と栄養⑥	理解度確認
27	第7章；特別な配慮を要する子どもの食と栄養⑦	7章のまとめ①特別な配慮を要する子どもへの具体的対応を学ぶ。
28	第7章；特別な配慮を要する子どもの食と栄養⑧	7章のまとめ②病気時の食事の実際・誤嚥しやすい食材について触れる。
29	まとめ①	①保護者対応
30	まとめ②	②総復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの健康と安全		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの健康と安全		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	子どもの保健と安全		出版社	教育情報出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	実践的な傷害予防を身につける。				
到達目標	子どもの事故予防として、効果のない方法と効果のある方法の違いを知る。 どのようにすれば事故を予防できるのかを具体的に考え、行うことができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	保育士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	水野 良子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	9章 子どもの病気と予防・手当	5節 子どもと血液の病気
2	9章 子どもの病気と予防・手当	6節 子どもと消化器の病気
3	9章 子どもの病気と予防・手当	7節 子どもと悪性腫瘍
4	9章 子どもの病気と予防・手当	8節 子どもと精神神経系の病気
5	9章 子どもの病気と予防・手当	9節 子どもと泌尿器・生殖器の病気
6	9章 子どもの病気と予防・手当	10節 子どもと皮膚の病気
7	9章 子どもの病気と予防・手当	11節 子どもと整形外科的病気
8	9章 子どもの病気と予防・手当	12節 子どもと口腔の病気
9	9章 子どもの病気と予防・手当	13節 子どもと眼の病気
10	9章 子どもの病気と予防・手当	14節 子どもと耳・鼻の病気
11	9章 子どもの病気と予防・手当	15節 子どもと内分泌の病気
12	9章 子どもの病気と予防・手当	16節 子どもと予防接種
13	第10章 保健的観点を踏まえた保育環境と援助	子どもの健康と安全オリエンテーション 1節 子ども健康と保育の環境
14	第10章 保健的観点を踏まえた保育環境と援助	2節 子どもの保健に関する個別対応 3節 子どもの集団全体の健康と安全管理
15	第11章 保育における健康と安全管理	1節 子どもの衛生管理
16	第11章 保育における健康と安全管理	2節 子どもの事故防止と安全対策
17	第11章 保育における健康と安全管理	3節 子どもの危機管理と災害への備え
18	第12章 子どもの体調不良・けがと応急手当	1節 子どもの体調不良・けがと応急手当
19	第12章 子どもの体調不良・けがと応急手当	2節 応急処置と救急蘇生法
20	第13章 子どもの保健と感染症対策ガイドライン	1節 「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく予防
21	第13章 子どもの保健と感染症対策ガイドライン	2節 「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく対処
22	第14章 個別な配慮を要する子どもへの対応	1節 保育における保健的対応 2節 3歳児未満への対応

23	第14章 個別な配慮を要する子どもへの対応	3節 アレルギー疾患への対応
24	第14章 個別な配慮を要する子どもへの対応	4節 その他の慢性疾患への対応
25	第14章 個別な配慮を要する子どもへの対応	5節 障害のある子ども、医療的ケア児への対応
26	第15章 子どもと保健指導	1節 子どもの保健と行政 2節 子どもの集団と保健行事
27	第15章 子どもと保健指導	3節 子どもの保健指導
28	第16章 子どもの健康と安全管理の実施体制	1節 職員間の連携・協働と組織的取組
29	第16章 子どもの健康と安全管理の実施体制	2節 保健活動の計画と評価
30	第16章 子どもの健康と安全管理の実施体制	3節 母子保健・地域保健における自治体との連携 4節 家庭・専門機関・地域の関係機関等との連携

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	身体表現Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	身体表現Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	指導実践を通して運動遊びの指導力を身につける。				
到達目標	幼児期に必要な運動遊びや身体表現法を考案し、指導できるようになる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	身体表現Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	酒井みゆき	実務経験	○		
実務内容	幼稚園教諭として私立幼稚園で4年間、フィットネス団体でインストラクターとして10年間勤務した実務経験を基に、幼児期に必要な運動遊びと保育現場で使える運動指導方法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について理解する
2	運動遊び実践	運動遊びを実践する
3	音楽体操 考案	音楽体操の振付を考案する
4	音楽体操 準備	考案した音楽体操の実践準備をする
5	音楽体操 実践	考案した音楽体操の指導実践
6	鬼ごっこ	鬼ごっこを実践する
7	ボール遊び	ボール遊びを実践する
8	マットを使った運動遊び	マット運動の指導と補助
9	跳び箱を使った運動遊び	跳び箱運動の指導と補助
10	鉄棒を使った運動遊び	鉄棒運動の指導と補助
11	器械運動の補助方法	マット、跳び箱、鉄棒の補助方法
12	運動遊び 考案	運動遊びの指導実践内容を考案する
13	運動遊び 準備	考案した運動遊びの実践準備をする
14	運動遊び 実践	考案した運動遊びの指導実践
15	前期のまとめ	前期の振り返りとまとめ
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	個人での指導実践準備	個人指導の実践準備
18	個人での指導実践①	個人指導の実践
19	個人での指導実践②	個人指導の実践
20	個人での指導実践③	個人指導の実践
21	個人での指導実践④	個人指導の実践
22	個人での指導実践⑤	個人指導の実践

23	個人での指導実践⑥	個人指導の実践
24	個人での指導実践⑦	個人指導の実践
25	個人での指導実践⑧	個人指導の実践
26	個人での指導実践⑨	個人指導の実践
27	個人での指導実践⑩	個人指導の実践
28	個人での指導実践⑪	個人指導の実践
29	個人での指導実践⑫	個人指導の実践
30	総まとめ	授業の振り返りとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	造形表現Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	造形表現Ⅲ		
開講					
年次	3年	学科	こども心理学科	単位数	2
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	①造形表現を通じて、保育者として子どもたちの感性を培うことができるようになる。 ②保育者として必要な造形に関する知識教養を身につけ、子どもの造形活動を行えるようになる。				
到達目標	①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、指導計画を立てることができるようになる。 ②造形技法、道具・素材を使って、保育教材を作成し保育に活かすことができるようになる。 ③様々な造形表現の基礎知識・技能をいかし、子どもの表現活動に展開させることができるようになる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	造形表現Ⅰ・造形表現Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	伊藤 知香子	実務経験	○		
実務内容	海外日本人幼稚園を含む幼稚園にて教諭として8年間勤務、保育園にて保育士として5年間勤務、東京都子育て支援員として1年間勤務した実務経験を基に、保育者として子どもの感性を培い造形活動を行えるよう教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業「造形表現」の概要及び年間計画提示
2	幼児造形教育の教材①	教材や技法の基礎理解①
3	幼児造形教育の教材②	教材や技法の基礎理解②
4	幼児造形教育の教材③	教材づくり
5	幼児造形教育への実践①	保育教材研究（イメージを豊かにする）
6	幼児造形教育への実践②	イメージを豊かにする保育教材の作成
7	幼児造形教育への実践③	イメージを豊かにする保育教材の作成
8	幼児造形教育への実践④	イメージを豊かにする保育教材の作成
9	幼児造形教育への実践⑤	イメージを豊かにする保育教材の作成
10	幼児造形教育への実践⑥	イメージを豊かにする保育教材の作成
11	幼児造形教育の方法と実践①	保育教材を活用した保育の指導案の作成
12	幼児造形教育の方法と実践②	保育教材を使用した模擬保育
13	幼児造形教育の方法と実践③	保育教材を使用した模擬保育
14	幼児造形教育の方法と実践④	子どもの発達と造形について（造形表現Ⅰ・Ⅱの復習と展開）
15	幼児造形教育の方法と実践⑤	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
16	幼児造形教育への実践⑥	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
17	幼児造形教育への実践⑦	季節や行事を感じる造形表現の制作
18	幼児造形教育への実践⑧	季節や行事を感じる造形表現の制作
19	幼児造形教育への実践⑨	季節や行事を感じる造形表現の制作
20	幼児造形教育への実践⑩	季節や行事を感じる造形表現の制作
21	幼児造形教育への実践⑪	季節や行事を感じる造形表現の制作の発表

22	幼児造形教育への実践⑫	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
23	幼児造形教育への実践⑬	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
24	幼児造形教育への実践⑭	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
25	幼児造形教育への実践⑮	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
26	幼児造形教育への実践⑯	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
27	幼児造形教育への実践⑰	色々な材料の造形の指導案作成
28	幼児造形教育の方法と実践⑤	色々な材料の造形の模擬保育
29	幼児造形教育の方法と実践⑥	色々な材料の造形の模擬保育
30	まとめ・振り返り	1年間のまとめと振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科		2
使用教材	保育のためのやさしい子どもの歌ー弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どものうたのレパートリーを広く学習し、保育現場に相応しい演奏技術を身に付ける。				
到達目標	子どものうたの伴奏(弾き歌い)の技術を身に付け、保育現場に相応しい演奏表現ができるようになる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	保育士				
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 美季子	実務経験	○		
実務内容	小・中学校音楽専科教諭として国立・公立小中学校にて、8年間勤務した実務経験を基に、保育現場に活かせる音楽表現技術を指導する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1年次の復習	授業の流れ、到達目標について 1年次既習曲の確認
2	季節のうた(1)	生活のうたの弾き歌い練習
3	季節のうた(2)	生活のうたの弾き歌い練習
4	季節のうた(3)	生活のうたの弾き歌い練習
5	季節のうた(4)	生活のうたの弾き歌い練習
6	成果発表①	「生活のうた」から演奏発表
7	季節のうた：夏(1)	夏の季節の弾き歌い練習
8	季節のうた：夏(2)	夏の季節の弾き歌い練習
9	季節のうた：夏(3)	夏の季節の弾き歌い練習
10	季節のうた：夏(4)	夏の季節の弾き歌い練習
11	季節のうた：秋(1)	秋の季節の弾き歌い練習
12	季節のうた：秋(2)	秋の季節の弾き歌い練習
13	季節のうた：秋(3)	秋の季節の弾き歌い練習
14	季節のうた：秋(4)	秋の季節の弾き歌い練習
15	成果発表②	「季節のうた：夏・秋」からの演奏発表
16	季節のうた：冬(1)	冬の季節の弾き歌い練習
17	季節のうた：冬(2)	冬の季節の弾き歌い練習
18	季節のうた：冬(3)	冬の季節の弾き歌い練習
19	季節のうた：冬(4)	冬の季節の弾き歌い練習
20	季節のうた：春(1)	春の季節の弾き歌い練習
21	季節のうた：春(2)	春の季節の弾き歌い練習
22	季節のうた：春(3)	春の季節の弾き歌い練習

23	季節のうた：春（４）	春の季節の弾き歌い練習
24	成果発表③	「季節のうた：冬・春」からの演奏発表
25	その他の子どものうた（１）	その他の子どものうたの弾き歌い練習
26	その他の子どものうた（２）	その他の子どものうたの弾き歌い練習
27	その他の子どものうた（３）	その他の子どものうたの弾き歌い練習
28	その他の子どものうた（４）	その他の子どものうたの弾き歌い練習
29	成果発表④	「その他の子どものうた」から演奏発表
30	総まとめ	演奏発表 一年間の振り返りと次年度に向けて

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	教育心理学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	教育心理学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	60
使用教材	よくわかる 教育心理学 第2版		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児児童生徒のさまざまな行動の背景には、心理学的要因が介在している。その発生メカニズムを理解し、支援していく上で必要な基礎知識と技法を、教育心理学の知見を活用して習得する機会を提供する。				
到達目標	1. 幼児児童生徒（障害特性をもつ幼児児童生徒を含む）に対する教育活動を効果的に進める上で必要な、心理学的知識や技術の習得を目指す。 2. 保育・学校教育において出会う問題を解決し、幼児児童生徒の成長を促進する心理教育的援助サービスの基本的な理論と実践について学ぶ。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	心理学概論 社会心理学 認知心理学 発達心理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	井芹まい	実務経験	○		
実務内容	スクールカウンセラーとして私立中学・高等学校にて5年勤務した経験を基に、心の働きや仕組み、社会的役割を教え、現場での具体的な対応に生かせるような専門性を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス /教育心理学の考え方-1	授業の進め方/成熟論的アプローチ/行動主義的アプローチ/構成主義的アプローチ
2	教育心理学の考え方-2	社会文化的アプローチ/状況論的アプローチ/生態学的アプローチ
3	学びの場とその移行-1	学びの連続性/幼児期～中学での学び
4	学びの場とその移行-2	高校での学び～生涯学習の学び
5	学びの理解①学びの意欲-1	動機づけ/原因帰属/学習性無力感
6	学びの理解①学びの意欲-2	自己効力感/学習目標
7	これまでのまとめ①	保育・学校現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説①
8	学びの理解②学びのしくみ-1	記憶のメカニズム/知識/メタ認知/問題解決のモデル/領域固有性
9	学びの理解②学びのしくみ-2	熟達化/9歳の壁/自己調整学習/学びの共同化
10	学びの理解③学びの諸相-1	リテラシー/文章理解/文章算出/計数
11	学びの理解③学びの諸相-2	初期算数/バグ分析/既有知識と理解
12	学びの支援①学びの開発と体系化-1	授業過程/授業づくり
13	学びの支援①学びの開発と体系化-2	カリキュラム（学びの体系化/開発と評価）
14	これまでのまとめ②	保育・学校現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説②
15	テスト	試験
16	学びの支援②主体的な学びの授業-1	発見学習/有意味受容学習/仮説実験授業
17	学びの支援②主体的な学びの授業-2	協同学習/プロジェクト学習/オープン・エデュケーション
18	学びの支援③個に応じた学びの援助-1	プログラム学習/完全習得学習/習熟度別学習/小集団学習/チーム・ティーチング
19	学びの支援③個に応じた学びの援助-2	適正処遇交互作用/知能検査/多重知能理論と情動的知性/非認知能力/創造性
20	適応の理解と支援①自立と社会性の学び-1	虐待/虐待を防ぐ/仲間関係/性意識/部活動
21	適応の理解と支援①自立と社会性の学び-2	道徳性/自我同一性/キャリア教育/学級集団/学級風土/学校行事
22	これまでのまとめ③	保育・学校現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説③

23	適応の理解と支援②子どもを支える-1	休日の子ども/SNSと子ども/いじめ/不登校/摂食障害/非行
24	適応の理解と支援②子どもを支える-2	発達障害/精神疾患/格差と貧困/生徒指導と教育相談/特別支援教育/インクルージョン
25	適応の理解と支援③学びと適応の評価-1	観察/評価/テスト
26	適応の理解と支援③学びと適応の評価-2	学力/関心・意欲/ポートフォリオとドキュメンテーション
27	教師の成長-1	教師の役割/反省的実践家/正統的周辺参加/実践研究/アクションリサーチ
28	教師の成長-2	教師のビリーフ/教師の人間関係/教師の精神衛生/感情労働
29	これまでのまとめ④	保育・学校現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説④
30	テスト	試験

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	発達心理学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	発達心理学Ⅱ		
開講					
年次	3年	学科	こども心理学科	単位数	2
使用教材	問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学 (改訂版)			出版社	有斐閣

科目の基礎情報②

授業のねらい	発達心理学Ⅰをベースに、発達心理学における最新の研究成果と代表的な理論を深く学び、人間の心身の発達メカニズムを多面的により理解することを目的とする。自分と異なる世代や異なるライフコースを歩む人々への関心と相互理解を進めるとともに、発達についての見方をさらに広め、考えを深めていく。これらの理論と知識を、家族や地域のつながりが希薄化した現状、子育てや介護の社会化など現実の子育て支援や教育・臨床現場といった実践の場面でどのように応用できるかについても考察する。				
到達目標	1. 発達心理学の視点から各発達段階の発達状況を分析できるようになる。 2. 子どもの育ちを支えるために、発達心理学の研究成果を具体的な実践場面（教育・保育など）に結びつけて考えることができるようになる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	滝沢 和香奈	実務経験	○		
実務内容	保育所にて保育士として4年間勤務、未就園児親子支援・ブレイクアウトでの実務経験5年した実務経験を基に、発達心理学の意義および目的を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、ねらい、評価方法等説明
2	人として生まれ人として生きる	人の生涯をめぐる普遍的な営みと今日的課題・発達段階と発達課題
3	発達するとはどういうことか	発達観の変化・理論的枠組み・遺伝と環境
4	生命の芽生えから誕生まで	生命の芽生え・胎児はお腹の中で何をしているのか・出生をめぐる現代的な問題
5	第1回復習	ここまでの確認を行います
6	赤ちゃんがとらえる世界	ピアジェの発達段階・社会性の萌芽
7	コミュニケーションと人間関係の発達	他者との関係形成のための生物学的基盤・多様な関係を支える子どもの発達
8	言語と遊びの発達	表象と象徴機能・言語が芽生えるまで・幼児期の言語発達・遊びが広げる子どもの世界
9	第2回復習	ここまでの確認を行います
10	関わりの中で育まれる自己	主体としての自己・客体としての自己・自己制御の発達
11	仲間の中での育ち	心の理論に基づく社会性の発達・仲間の中での育ち
12	学校での学び	子どもと学校 記憶の発達・動機づけ・メタ認知
13	第3回復習	ここまでの確認を行います
14	子どもからの卒業	思春期の身体変化・思春期発達の受容・自己理解の発達
15	大人になるために	アイデンティティの発達・職業生活における発達・自律的主体的なキャリア形成・家庭生活における発達
16	関わりの中で成熟する	成人初期・中期における他者との関わりを深化と成熟・中年期危機と生成継承性・職業生活における発達・親としての発達
17	第4回復習	ここまでの確認を行います
18	人生を振り返る	認知機能の加齢変化・パーソナリティの発達と情動の発達・発達を支える家族や社会のネットワーク・高齢者の死生観と死をめぐる問題
19	発達は十人十色	発達におけるつまずきをどう理解し支え合うか
20	第5回復習	ここまでの確認を行います
21	摂食障害	摂食障害について、各自調べてまとめ、発表する

22	二次障害の予防について	二次障害の予防について
23	知能	教科書P14 コラム知能について
24	気質	教科書P103 コラム気質について
25	非認知能力	教科書P133非認知能力について
26	アロマザリング	教科書P188アロマザリングについて
27	バトラーの提言	教科書P210コラム プロダクティブ・エイジングと長寿革命
28	生物心理社会モデル	エンゲルの生物心理社会モデル
29	ネット依存・ゲーム障害	ネット依存・ゲーム障害について
30	年間総復習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	モチベーション・インストラクター			
必修選択	選択	(学則表記)	モチベーション・インストラクター			
開講					単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	60	
使用教材	モチベーション・インストラクター資格【前編】【後編】		出版社	一般社団法人モチベーションマネジメント協会		

科目の基礎情報②

授業のねらい	目標達成への行動を喚起する、また達成するまで行動を持続するための理論理解は、保育者として必要な力である。本科目では身近な生活場面を元にモチベーション理論を実践的に学び、理解していく。				
到達目標	①活動場面を中心に、自身のモチベーションを高め、維持する方法を習得する。 ②保育者として保護者・子ども、または同僚のモチベーションを高める実践的な方法を習得する。 ③「公認モチベーション・インストラクター資格」を取得することができる				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	モチベーション・インストラクター資格				
関連科目	心理実践Ⅰ 心理実践Ⅱ 心理実践Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柳沼 洋子	実務経験	○		
実務内容	幼稚園教諭として幼稚園にて6年間勤務した経験を基に、モチベーションを高める実践的な方法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	モチベーションとは	モチベーション・インストラクター資格の趣旨理解 ①モチベーションとは何か ②なぜ重要か ③高める必要があるのか
2	期待理論①	モチベーションの3つの要素とは
3	期待理論②	やりたい感を高める3つのポイント
4	期待理論③(やらなき感)	やらなき感を高める4つのポイント
5	期待理論④(やれそう感)	やれそう感を高める3つのポイント
6	復習	期待理論
7	選択理論	選択理論
8	構造転換(スイッチ&フォーカス)	構造転換(スイッチ&フォーカス)
9	影響力の源泉	5つの影響力の源泉
10	PM理論	PM理論・2種類のリーダーシップ
11	テスト+復習	選択理論・構造転換を使いこなす
12	外発的/内発的モチベーション	モチベーションのタイプについて
13	欲求階層説(マズロー)	状態による欲求の違い
14	集団凝集性	集団・組織に魅力を感じる3つのポイント
15	全体まとめ	全体まとめ・インストラクター資格について
16	アドラー心理学とフロイト心理学	アドラー心理学とフロイト心理学の違い
17	アドラー心理学と5つの理論 ①	アドラー心理学とは ①
18	アドラー心理学と5つの理論 ②	アドラー心理学とは ②
19	自分との付き合い方 ①	感情との付き合い方
20	自分との付き合い方 ②	「怒り」との付き合い方
21	自分との付き合い方 ③	ライフタクス

22	人間関係 ①	人間関係とは
23	人間関係 ②	人間関係を作る理論と技法
24	仕事・リーダーとしての心理学 ①	集団心理 リーダーシップ論
25	仕事・リーダーとしての心理学 ②	アサーショントレーニング
26	仕事・リーダーとしての心理学 ③	コーチング
27	親子・家族関係の心理学 ①	家族理論
28	親子・家族関係の心理学 ②	望ましい親子関係とは
29	人生を豊かにする心理学	失敗から立ち直るということ
30	全体まとめ ②	振り返り 確認

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	卒業研究（事例研究）		
必修選択	選択	（学則表記）	卒業研究		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場での子どもの行動や発達を心理学の理論や概念に基づいて捉える力を養う。 ・興味のある子どもの発達、遊び、対人関係、保育者や保護者とのかかわりなどを整理し、研究課題を具体化する。 ・研究の家庭と結果を整理し、発表における表現力を身に付ける。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤心理学を用いた実践を通じて保育士における保護者、こどもへの支援について総合的に理解する 				
評価基準	授業内で実施する発表、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考					
担当教員	渡邊 みなみ	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的と到達点への理解 ・成績の基準を理解 ・卒業研究発表会までの流れへの理解
2	卒業研究テーマの選定	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究のテーマ選びにおけるポイントの理解 ・卒業研究のテーマ選び
3	研究の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・研究を通して何を明らかにするのか整理する
4	研究計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> ・方法やスケジュールを決める
5	データの集め方①	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集の基本の理解
6	データの集め方②	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集の実践練習
7	仮説・分析計画	<ul style="list-style-type: none"> ・予想と分析方法を考える
8	仮説・分析計画 中間報告①	<ul style="list-style-type: none"> ・予想と分析方法を考える ・進み具合を確認
9	データ整理①	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の分析、表やグラフにまとめる
10	データ整理②	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の分析、表やグラフにまとめる
11	データ整理③	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の分析、表やグラフにまとめる
12	結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・分析から分かった情報の整理
13	研究発表構成シート作成①	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表のストーリーを考える ・研究発表構成シートの記入
14	研究発表構成シート作成②	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究構成シートの記入
15	発表原稿作り①	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿作りの基本理解 ・原稿作成
16	発表原稿作り②	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿作成
17	発表原稿作り③	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿作成
18	スライド作成①	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドの目的と構成の理解 ・デザインの基本を学ぶ
19	スライド作成②	<ul style="list-style-type: none"> ・結果、考察スライドの作成

20	スライド作成③	・結果、考察スライドの作成
21	スライド作成④	・ストーリーと発表の流れを整える
22	スライド作成⑤	・ストーリーと発表の流れを整える
23	発表練習	・完成したスライドを元に発表の練習を実施
24	模擬発表①	・完成したスライドを元に発表。フィードバックをもらう
25	スライド作成⑥	・模擬発表を受けてスライドの修正
26	模擬発表②	・完成したスライドを元に発表。フィードバックをもらう
27	スライド作成⑧	・模擬発表を受けてスライドの修正
28	発表練習	・完成したスライドを元に発表の練習を実施
29	発表練習	・完成したスライドを元に発表の練習を実施
30	発表会	・発表会当日

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅲ		
必修選択	選択	(学別表記)	実習指導Ⅲ		
開講			単位数	時間数	
年次	3年	学科	こども心理学科		30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育実習の意義を理解し、実習に必要な知識、技能、心構えを身に付ける。保育者としての専門性をより高める。				
到達目標	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の完全について実践や事例を通して学ぶ。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	実習指導Ⅰ・実習指導Ⅱ・保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	橋本 美咲	実務経験		○	
実務内容	認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、実習の意義と目的を総合的に教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス 保育実習の概要	保育実習について・ステップアップ表の確認
2	保育実習日誌の書き方	保育実習日誌の書き方 復習
3	保育実習日誌の書き方	0～2歳児の発達と配慮点について
4	保育実習日誌の書き方	エピソード記録の書き方確認・日誌全項目の内容確認
5	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
6	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
7	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
8	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
9	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
10	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
11	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
12	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
13	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
14	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
15	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
16	施設の保育について学ぶ	保育所と他施設の連携について学ぶ
17	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
18	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
19	責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
20	責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する

21	真実実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
22	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
23	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
24	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
25	見通しを持った保育の必要性①	月案から週案を立案する
26	見通しを持った保育の必要性②	月案から週案を立案する
27	就職後を見据えた取り組み①	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
28	就職後を見据えた取り組み②	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
29	就職後を見据えた取り組み③	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
30	就職後を見据えた取り組み④	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習指導Ⅳ		
開講			単位数	時間数	
年次	3年	学科	こども心理学科		30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育実習の理解を高め、保育士としての基本的な態度、知識、技術の基礎を形成するとともに、保育実習に向けた課題の明確化を図る				
到達目標	①保育実習の意義・目的を理解する ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。 施設実習の単位が習得できている者。				
関連資格	保育士				
関連科目	施設実習				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	橋本 美咲	実務経験		○	
実務内容	認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、実習の意義と目的を総合的に教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習の概要	保育実習に向けての準備する内容を理解する
2	保育実習の目的理解	保育実習（施設）の「目的」「意義」「内容」を理解する
3	倫理綱領①	保育士倫理綱領を理解する
4	倫理綱領②	保育士倫理綱領を理解する
5	実習先の種類と概要①	実習先の施設種類における概要を理解する
6	実習先の種類と概要②	実習先の施設種類における概要を理解する
7	実習先の種類と概要③	実習先の施設種類における概要を理解する
8	実習施設調査	自分の実習先について調べ、施設種別と実習先の特徴について整理する
9	保育実習内容の明確化	実習施設調査を踏まえて実習先の施設種別と保育実習における内容の位置付けを図る
10	保育実習課題の明確化	実習施設調査を踏まえて保育実習を通しての課題及び各実習日の実習課題について検討する
11	実習生としての心構え①	心構え、実習時の服装、基本的な礼儀、マナー、電話のかけ方について考える
12	実習生としての心構え②	通所施設における礼儀やマナー、宿泊に伴う礼儀やマナーについて考える
13	プライバシーの保護と守秘義務	実習先における入所、通所児者のプライバシー保護及び守秘義務について理解する
14	トラブルシューティング	保育実習におけるトラブル事例について考察し、対応策について検討する
15	子どもの保育と保護者支援	子どもの保育における保護者支援を検討する
16	実習における計画	実習期間における実習計画書を作成する
17	保育実習における観察	保育実習における観察実習について理解する
18	保育実習における記録の意義・方法	実習日誌の意義と方法を理解する
19	保育実習における記録①	実習日誌の書き方を理解し、実際に作成する

20	保育実習における記録②	実習日誌の記載方法について深める
21	部分実習指導案	部分実習指導案の立て方を学ぶ 自分の実習先を想定し、指導案を書く
22	部分実習指導案	部分実習指導案の立て方を学ぶ 自分の実習先を想定し、指導案を書く
23	部分実習実践	指導案を基にグループで部分実習の実践をする
24	実習の振り返り	実習における振り返りを行い自己覚知を図る
25	実習報告書の作成①	実習計画書に基づき、実習報告書を作成する
26	実習報告書の作成②	実習計画書に基づき、実習報告書を作成する
27	発表①	保育実習を通しての学びを他者と共有する
28	発表②	保育実習を通しての学びを他者と共有する
29	実習の総括と自己評価	保育実習を通しての総括と自己評価を行う
30	課題の明確化	実習を通して学んだことを振り返る

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（保育所）		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	80
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶために、保育所の生活に参加する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	実習規定に定める必要時間数以上の出席をしている者。 成績評価が3以上の者。 保育実習指導Ⅰ(保育所)の単位を習得している者。				
関連資格					
関連科目	保育実習指導Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（施設）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（施設）		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	80
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	児童福祉施設や障害者支援施設にて実習を行い、保育士としての必要な基礎的な子どもや施設利用者に対する理解を深める。				
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	80
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育所での保育を実施し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力				
到達目標	①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について相互的に理解する。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥実習における自己の課題を明確化する。				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	出席が90単位以上ある者。 成績評価が3以上の者。 実習指導Ⅲの単位を取得している者。				
関連資格					
関連科目	実習指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	80
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	児童福祉施設での保育を実施し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力				
到達目標	①児童福祉施設の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの方針を明確にすることを通して、理解を深める。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について相互的に理解する。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥実習における自己の課題を明確化する。				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	出席が90単位以上ある者。 成績評価が3以上の者。 実習指導Ⅲの単位を取得している者。				
関連資格					
関連科目	実習指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	保育現場演習Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	保育現場演習Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	インターンシップの代替科目とし、学内で保育現場で得られる学びを実践的な授業を通して習得。				
到達目標	保育現場・児童福祉施設の1年間の流れを理解し、流れの目的やねらいと心理学の学びと保育の繋がりについて理解し、実践できる。				
評価基準	授業内で実施する発表、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考					
担当教員	橋本 美咲	実務経験	○		
実務内容	認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、保育現場や児童福祉施設の1年の流れ、目的やねらいを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	・授業の目的と到達点への理解 ・成績の基準を理解
2	保育現場・児童福祉施設の1年間の流れ①	・保育現場の1年間の流れの理解・自身で参考にする園を選定する
3	保育現場・児童福祉施設の1年間の流れ②	・保育現場の1年間の流れの具体的なねらいをとらえる
4	保育現場・児童福祉施設の1年間の流れ③	・学生自信が考える理想の年間スケジュール作成
5	保育現場・児童福祉施設の1年間の流れ④	・学生作成年間スケジュール発表 ・保育現場の1年間の流れまとめ
6	保育現場・児童福祉施設の1日の流れ①	・保育現場の1日の流れの振り返り
7	保育現場・児童福祉施設の1日の流れ②	・保育現場の1日の流れを細分化し、活動のねらいを考える
8	保育現場・児童福祉施設の1日の流れ③	・保育現場の1日の流れを細分化し、活動の計画①
9	保育現場・児童福祉施設の1日の流れ④	・保育現場の1日の流れを細分化し、活動の計画②
10	保育現場・児童福祉施設の1日の流れ⑤	・計画した活動の実践①
11	保育現場・児童福祉施設の1日の流れ⑤	・計画した活動の実践②
12	保育現場・児童福祉施設の1日の流れ⑥	・計画した活動の実践③
13	心理学実践①	・子どもの姿から見える子どもの心理への理解とアプローチ方法（外部講話）
14	心理学実践②	・子どもの姿から見える子どもの心理への理解とアプローチ方法（外部講話）
15	振り返りとまとめ	・ここまでの内容を振り返り、今後に向けた準備を進める

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	保育現場演習V		
必修選択	選択	(学則表記)	保育現場演習V		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	インターンシップの代替科目とし、学内で保育現場で得られる学びを実践的な授業を通して習得。				
到達目標	保育現場の1年間の流れを理解し、流れの目的やねらいと心理学の学びと保育の繋がりについて理解し、実践できる。また、保護者との関わりについても理解し実践できる。				
評価基準	授業内で実施する発表、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考					
担当教員	橋本 美咲				○
実務内容	認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、保育現場や児童福祉施設の1年の流れ、目的やねらいを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	・授業の目的と到達点への理解・成績の基準を理解・保育現場演習IV振り返り
2	保育現場・児童福祉施設における心理学実践①	子どもの姿から見える子どもの心理への理解とアプローチ方法（外部講話）
3	保育現場・児童福祉施設における心理学実践②	子どもの姿から見える子どもの心理への理解とアプローチ方法（外部講話）
4	保育現場・児童福祉施設における心理学実践③	保育現場演習から継続した外部講話をまとめた新聞作成①
5	保育現場・児童福祉施設における心理学実践④	保育現場演習から継続した外部講話をまとめた新聞作成② 新聞発表
6	保育現場・児童福祉施設における心理学実践⑤	保育現場における保護者対応（外部講話）
7	保育現場・児童福祉施設における心理学実践⑥	保護者対応ケースワーク①
8	保育現場・児童福祉施設における心理学実践⑦	保護者対応ケースワーク②
9	保育現場・児童福祉施設における心理学実践⑧	保護者対応ケースワーク③
10	保育現場・児童福祉施設における心理学実践⑨	保育現場における保護者対応 まとめ
11	保育現場演習IV・Vまとめの実践①	保育現場演習IV Vの学びを活かした応用的な実践①（各自設定）
12	保育現場演習IV・Vまとめの実践②	保育現場演習IV Vの学びを活かした応用的な実践②（各自設定）
13	保育現場演習IV・Vまとめの実践③	保育現場演習IV Vの学びを活かした応用的な実践③（心理的なケースワーク）
14	保育現場演習IV・Vまとめの実践④	保育現場演習IV Vの学びを活かした応用的な実践④（心理的なケースワーク）
15	振り返りとまとめ	ここまでの内容を振り返り、今後に向けた準備を進める

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育心理学実践Ⅳ		
必修選択	選択	(学別表記)	保育心理学実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科		120
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①保育現場・児童発達支援の1年の流れの繋がりを学ぶ ②学校授業での心理学的な学びを現場で実践し、更なる学びを習得する ③子どもと実際に関わり、子どもへの理解を深めると共に考察から学びを得る				
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤心理学を用いた実践を通じて保育士における保護者、こどもへの支援について総合的に理解する				
評価基準	必要時間数以上の実施を前提に、実習記録や学内課題等を踏まえ本校にて評価を実施 ※実習先からの評価は無し				
認定条件	期間内合計で67時間以上の実施かつ学内評価で60点以上となること				
関連資格					
関連科目					
備考					
担当教員	橋本 美咲	実務経験	○		
実務内容	認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、保育現場・児童発達支援の1年の流れの繋がりを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	心理学実践Ⅱ (実習1日目)	・保育現場にて実習オリエンテーション実施 ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
2	心理学実践Ⅱ (実習2日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
3	心理学実践Ⅱ (実習3日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
4	心理学実践Ⅱ (実習4日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
5	心理学実践Ⅱ (実習5日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
6	心理学実践Ⅱ (実習6日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
7	心理学実践Ⅱ (実習7日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
8	心理学実践Ⅱ (実習8日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
9	心理学実践Ⅱ (実習9日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
10	心理学実践Ⅱ (実習10日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
11	心理学実践Ⅱ (実習11日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
12	心理学実践Ⅱ (実習12日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
13	心理学実践Ⅱ (実習13日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
14	心理学実践Ⅱ (実習14日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
15	心理学実践Ⅱ (実習15日目)	・半期の振り返り ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育心理学実践Ⅴ
必修選択	選択	(学別表記)	保育心理学実践Ⅴ
開講			単位数
年次	3年	学科	こども心理学科
使用教材	なし	出版社	なし
時間数			
			120

科目の基礎情報②

授業のねらい	①保育現場・児童発達支援の1年の流れの繋がりを学ぶ ②学校授業での心理学的な学びを現場で実践し、更なる学びを習得する ③子どもと実際に関わり、子どもへの理解を深めると共に考察から学びを得る		
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤心理学を用いた実践を通じて保育士における保護者、子どもへの支援について総合的に理解する。		
評価基準	必要時間数以上の実施を前提に、実習記録や学内課題等を踏まえ本校にて評価を実施 ※実習先からの評価は無し		
認定条件	期間内合計で67時間以上の実施かつ学内評価で60点以上となること		
関連資格			
関連科目			
備考			
担当教員	橋本 美咲	実務経験	○
実務内容	認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、保育現場・児童発達支援の1年の流れのつながりを教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	心理学実践Ⅱ (実習1日目)	・保育現場にて実習オリエンテーション実施 ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
2	心理学実践Ⅱ (実習2日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
3	心理学実践Ⅱ (実習3日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
4	心理学実践Ⅱ (実習4日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
5	心理学実践Ⅱ (実習5日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
6	心理学実践Ⅱ (実習6日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
7	心理学実践Ⅱ (実習7日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
8	心理学実践Ⅱ (実習8日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
9	心理学実践Ⅱ (実習9日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
10	心理学実践Ⅱ (実習10日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
11	心理学実践Ⅱ (実習11日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
12	心理学実践Ⅱ (実習12日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
13	心理学実践Ⅱ (実習13日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
14	心理学実践Ⅱ (実習14日目)	・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力
15	心理学実践Ⅱ (実習15日目)	・半期の振り返り ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設機能と保育士の職務について学ぶ ・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレッドシートに入力

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	就職指導Ⅲ			
必修選択	選択	(学則表記)	就職指導Ⅲ			
開講					単位数	時間数
年次	3年	学科	こども心理学科		1	30
使用教材	さんこう就活ガイド 自信がもてる、成長できる 新人保育者が身につけたい社会人基礎スキル		出版社	株式会社日本教育クリエイト 中央法規出版		

科目の基礎情報②

授業のねらい	最適であり、望む就職が出来る知識・技術を身に付ける				
到達目標	自身や園、施設の特徴を理解し、それぞれが納得した就職先を実現することができる。 社会人としてのマナーを理解することができる。 文書や言葉で自分の思いを伝えることができる。 敬語などTPOに合わせた適切な言葉遣いで話すことができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70％）および授業態度と参加の積極性（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山口 沙織	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 社会人として、業界理解	授業の流れ・年間スケジュール、働く意義・目的等を知る 保育の大切さ、現段階で目指す保育者像をイメージする、保育のお仕事にも様々な施設・業種があることを知る
2	就職活動の流れ①	就職活動の流れの概要を知る、就職説明会・園見学・園の探し方を知る
3	就職活動の流れ②	就職活動の規定、求人票の見方、求人票に掲載されているキーワードの意味を知る 公務員と私立の違い、子ども関連企業と保育士の違い、就職活動の仕方について知る
4	自己分析・自分に合う職場探し PREP法・自己PR作成	自分の対応を知り、それに見合った職場探しのコツを知る PREP法を学び、自己PRを作成する
5	志望動機作成	志望動機を作成する
6	履歴書作成①	履歴書を作成する
7	履歴書作成②	履歴書を完成させる
8	就職書類 敬語と身だしなみ	就職活動に必要な書類、連絡方法を学ぶ 良く使われる敬語と就職活動における身だしなみを学ぶ
9	試験対策(面接)①	面接の仕方、所作等を知る
10	試験対策(面接)②	面接の所作等を再確認、面接で多い質問を準備する
11	試験対策(面接)③	模擬面接を実施し、フィードバックから改善点を見つける
12	筆記試験	良く出題させる筆記試験の傾向や対策を知る
13	作文・小論文試験	作文と小論文の違い、書き方、原稿用紙の使い方を知る
14	実技試験・オンライン試験について	実技試験の傾向、オンライン試験のポイントなどを学ぶ
15	内定後の対応	内定した後の書類、その後の学校生活の過ごし方等を学ぶ
16	現場理解	第一章 保育者に求められる「社会人基礎力」
17	現場理解	第二章 仕事をスムーズに進める【発信力】
18	現場理解	第三章 信頼関係を築く【傾聴力】
19	現場理解	第四章 指導や意見の違いを受け入れる【柔軟性】
20	現場理解	第五章 組織や周囲の人との関係性を理解する【状況把握力】

21	現場理解	第六章 保育の質を高める 【規律性】
22	仕事の進め方①	第七章 仕事の効率を上げる 【ストレスコントロール力】
23	仕事の進め方②	第八章 物事に進んで取り組む 【主体性】
24	仕事の進め方③	第九章 周囲を巻き込んで仕事を前に進める 【働きかけ力】
25	仕事の進め方④	第十章 目的に向けてあきらめずに挑戦し続ける 【実行力】
26	仕事の進め方⑤	第十一章 失敗を学びに変える 【課題発見力】
27	仕事の進め方⑥	第十二章 仕事のプロセスを明らかにして準備する 【計画力】
28	仕事の進め方⑦	第十三章 新しい価値を生み出す 【創造力】
29	仕事の進め方⑧	第十四章 保育者としてのキャリアデザイン
30	未来について	まとめ